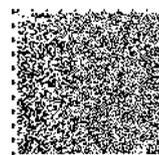


第2章

地域福祉に関する 現状と課題

1. 第2次計画における取り組み
2. 市民アンケート調査の結果（久喜市実施）
3. 地域活動実践者等へのアンケート調査結果（久喜市社会福祉協議会実施）
4. 調査結果から見える現状と課題



1 第2次計画における取り組み

本市では、第2次計画において、「いきいきと自分らしく暮らすことができる地域づくり」、「お互い様の気持ちで支え合う地域づくり」、「みんなで暮らせるまちづくり」、「サービスを利用しやすい環境づくり」の4つの基本目標に基づき地域福祉に関する施策を進めてきました。

基本目標1 いきいきと自分らしく暮らすことができる地域づくり

福祉教育を充実し、一人ひとりの意識を高めるため、あらゆる世代が福祉について学習できるよう、学習機会の充実を図るとともに、人権教育及び人権啓発の推進や、人権意識の向上に努めました。

特に自助活動である「あんしんカード*」の普及については、目標値に達する見込みです。(あんしんカード配布数(累積)：平成27年度18,969枚→令和3年度28,632枚 目標の98.7%)

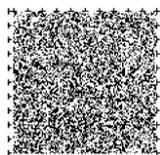
また、ボランティア活動などの地域福祉活動を活発にするため、ボランティア養成講座の開催などボランティアの育成や発掘に取り組みました。

しかしながら、令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により、大規模な活動制限となり、ボランティア活動参加のきっかけづくりとなる講座の中止、受入施設等の減少に伴い、ボランティア活動者の意欲低下や、活動団体の解散などが一部にみられています。

基本目標2 お互い様の気持ちで支え合う地域づくり

ふれあいと交流を大切にする場づくりを推進するために、ふれあい・いきいきサロンの設置など、気軽に集まれる場の設置に取り組みました。(ふれあい・いきいきサロンの設置数：平成27年度40か所→令和3年度63か所 目標の105%)

また、地域活動を担う団体や地域固有の活動に対して支援を行い、コロナ禍でも活動を継続できるような情報提供に努めました。(地区コミュニティ協議会*の組織数：平成27年度11団体→令和3年度13団体 目標の61.9%)



さらに、災害時の備えや地域の見守り体制を強化するため、自主防災組織*の育成支援、要援護者見守り支援の充実、福祉委員の配置、地区あったか会議*の設置を進めました。地区あったか会議については、地域における課題を住民同士で検討し、解決に取り組んでいく機会として、平成30年度に初めて開催し、各地域へ広がりはじめたところでしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、一時休止となっています。（自主防災組織の組織率：平成27年度71%→令和3年度79.6% 目標の99.5%）

基本目標3 みんなで暮らせるまちづくり

高齢者や障がい者、子育て世帯の地域生活を支援するため、各福祉計画の施策の充実に努めました。（居宅介護等サービスを受けている障がい者の数：
平成27年度299人→令和3年度319人 目標の102.9%）

くき元気サービス*の拡充を図り、地域支え合いの仕組みづくりを推進しましたが、新型コロナウイルスの影響により、協力会員の登録数は減少しています。

デマンド交通*など公共交通の充実や公共施設等のバリアフリー*化に取り組みました。

また、孤立しがちな生活困窮者*の自立を支援するため、生活困窮者自立支援事業*の実施や資金の貸し付け等を行い、多くの相談に対応しました。

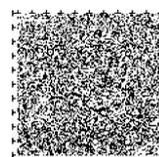
さらに、地域包括のネットワークづくり推進のために、生活支援コーディネーター*やコミュニティソーシャルワーカー*の配置、民生委員・児童委員活動への支援、地域福祉に関係する団体との情報交換や連携を図りました。

基本目標4 サービスを利用しやすい環境づくり

情報がわかりやすく行き届くように、広報紙、ホームページ、社協情報配信サービス*、SNS*、各種冊子、出前講座など様々な媒体を使い、地域福祉に関する情報を提供しました。

また、信頼される相談しやすい体制を整えるために、相談窓口体制の充実、専門相談等による訪問相談の実施、関係機関や専門職との連携を図りました。

さらに、権利擁護*体制を充実するために、成年後見制度*など権利擁護に関する制度や仕組みについて周知を図り、令和3年度には成年後見センターを市役所内に設置しました。



2

市民アンケート調査の結果（久喜市実施）

(1) 調査概要

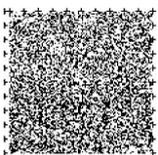
「第3次地域福祉計画・地域福祉活動計画」を策定するにあたり、市民の地域福祉に関する意向や現状を把握し、基礎資料とするため、市がアンケート調査を実施しました。

なお、令和4年4月からの成人年齢の引き下げを踏まえ、「市民調査」の対象者は「満18歳以上の市民」としました。

	市民調査	高校生調査
対象者	満18歳以上の市民 (令和3年6月1日現在)	市内に所在の県立高等学校(5校)に通学している高校1年生及び2年生
抽出方法	住民基本台帳登録者の内から無作為抽出	各学校2クラス
調査方法	郵送による配布・回収	学校配布・回収
配布件数	2,000件	392件
回収率	55.8%	100%
期間	令和3年7月27日～ 令和3年8月17日	令和3年7月7日～ 令和3年9月9日

- ・グラフの「n=〇〇」という表記は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人数）を表しています。
- ・比率は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率が0.05未満の場合には0.0と表記しています。
- ・選択肢に対しての回答者の数を基数とし、比率算出を行っています。このため、比率計が100%を超えることがあります。
- ・報告書中の文章やグラフにおいて、設問や選択肢の一部を省略して記載している場合があります。

※アンケート調査結果の詳細については、市ホームページに掲載しています。

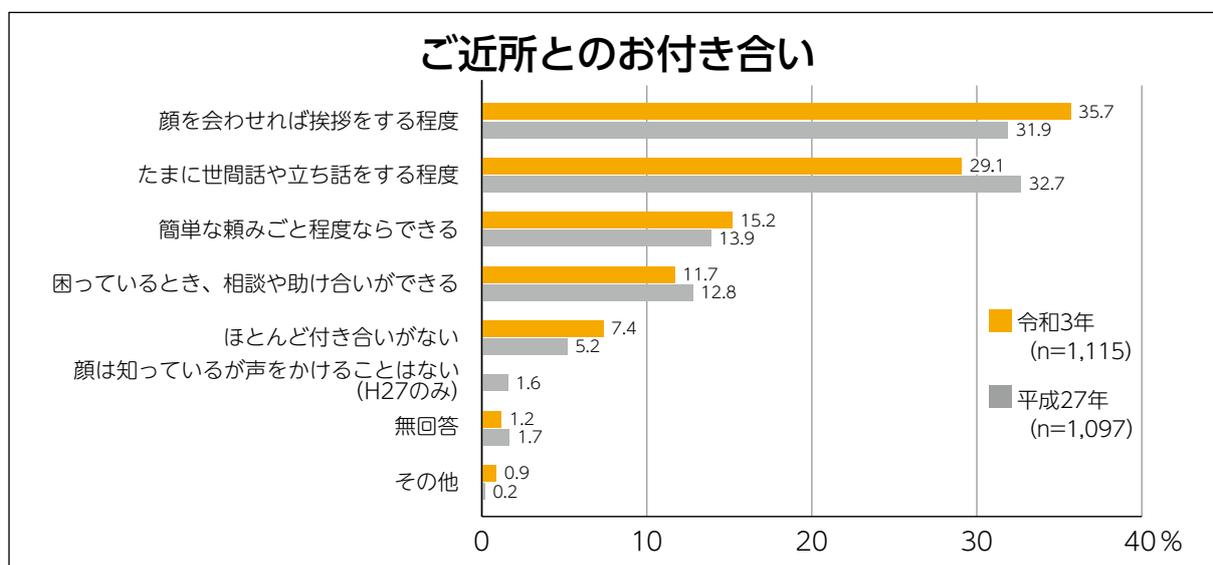


(2) 主な回答結果

日頃、ご近所とどの程度のお付き合いがありますか。(〇は1つ)【一般】

近所付き合いは、「顔を会わせれば挨拶をする程度」35.7%が最も多い回答となっています。次いで、「たまに世間話や立ち話をする程度」29.1%、「簡単な頼みごと程度ならできる」15.2%となっています。

「簡単な頼みごと程度ならできる」と回答した人は、前回の調査より1.3ポイント増加していますが、「困っているとき、相談や助け合いができる」と回答した人は、前回の調査より1.1ポイント減少しています。



(単位：%)

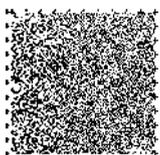
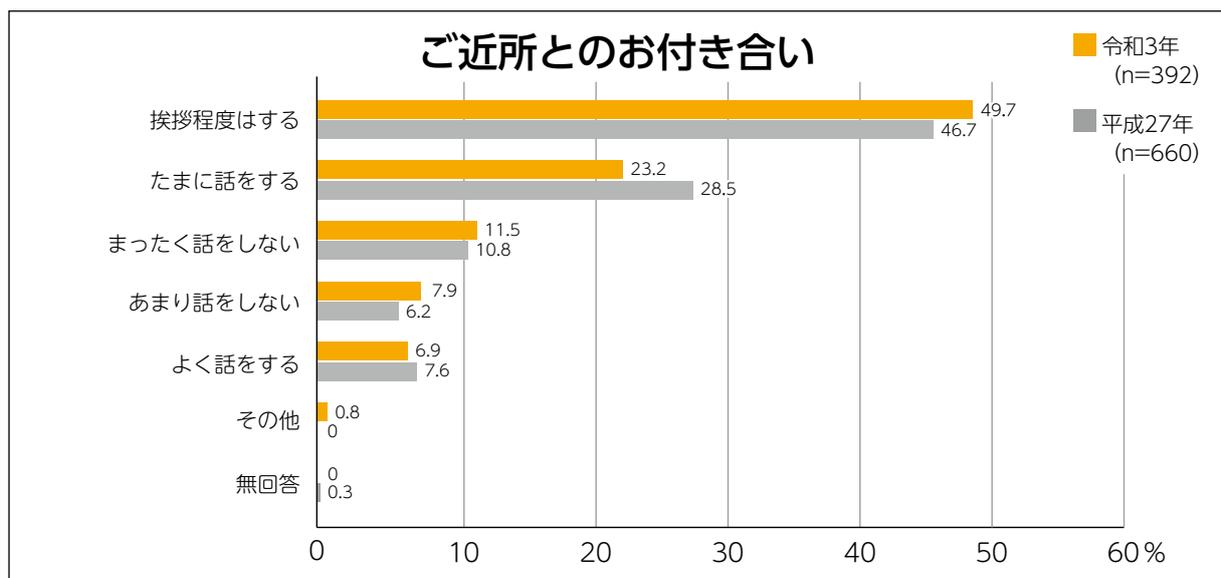
	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	その他
顔を会わせれば挨拶をする程度	70.0	63.1	50.5	42.1	44.7	36.2	20.2	17.9	0.0
たまに世間話や立ち話をする程度	0.0	9.2	24.3	24.3	30.6	31.5	35.3	33.6	0.0
簡単な頼みごと程度ならできる	0.0	3.1	5.8	8.6	12.9	17.0	22.3	23.6	0.0
困っているとき、相談や助け合いができる	20.0	1.5	9.7	9.9	5.3	10.2	16.4	22.1	0.0
ほとんど付き合いがない	10.0	21.6	10.7	14.5	5.9	4.3	3.4	3.6	50.0
無回答	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	1.3	2.1	2.1	50.0
その他	0.0	0.0	1.0	0.6	0.6	0.4	1.7	1.4	0.0
回答人数 (人)	10	65	103	152	170	235	238	140	2



日頃、ご近所とどの程度のお付き合いがありますか。(〇は1つ)【高校生】

近所付き合いは、「挨拶程度はする」49.7%が最も多い回答となっています。次いで、「たまに話をする」23.2%、「まったく話をしない」11.5%となっています。

「たまに話をする」と回答した人は、前回の調査より5.3ポイント減少しています。「よく話をする」と回答した人も、前回の調査より0.7ポイント減少しています。

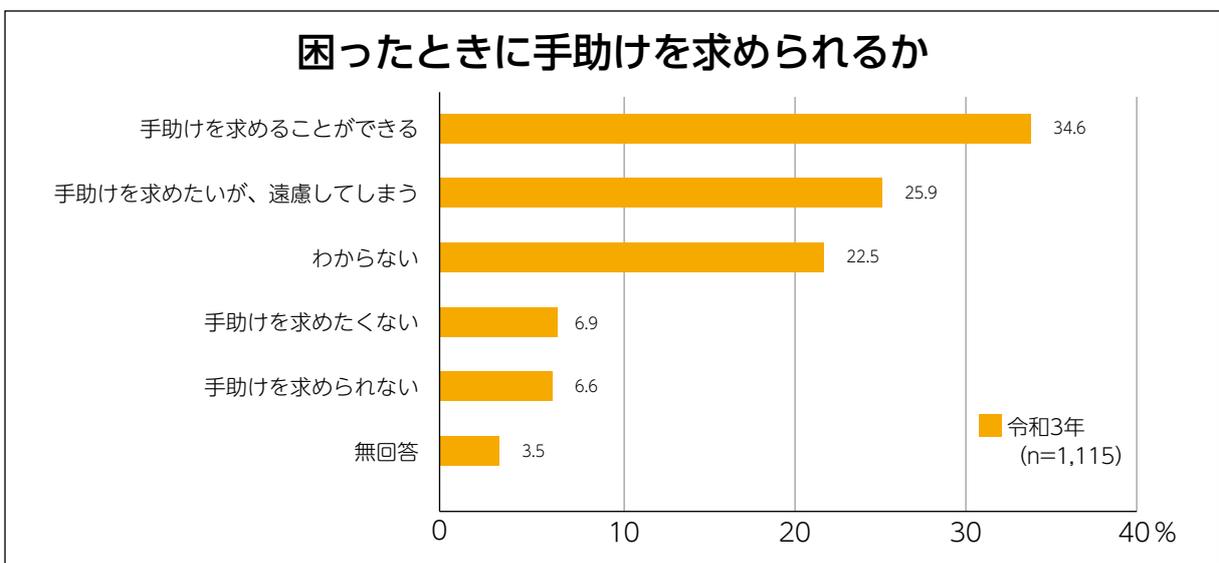


困ったときに地域の人に手助けを求められますか。(〇は1つ) 【一般】

困ったときに手助けを求められるかでは、「手助けを求めることができる」34.6%が最も多い回答となっています。次いで「手助けを求めたいが、遠慮してしまう」25.9%、「わからない」22.5%でした。

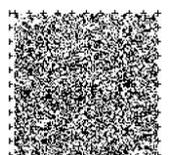
「手助けを求めることができる」と回答した人を年代別にみると、70歳代が42.9%と最も高く、次いで80歳代以上が42.1%、60歳代が40.9%となっています。

「手助けを求めたいが、遠慮してしまう」と回答した人を年代別にみると、20歳代が41.5%と最も高く、次いで10歳代が40.0%、40歳代が34.9%、30歳代が33.0%となっています。



(単位：%)

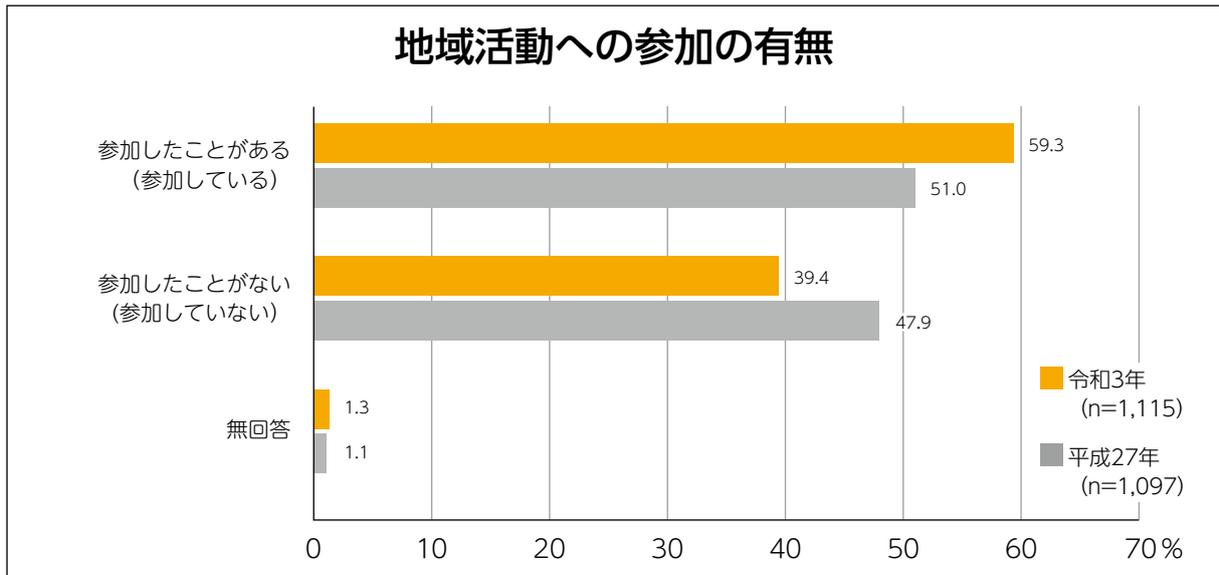
	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以上	その他
手助けを求めることができる	30.0	20.0	26.2	25.0	28.2	40.9	42.9	42.1	0.0
手助けを求めたいが、遠慮してしまう	40.0	41.5	33.0	34.9	29.4	20.4	18.9	20.0	0.0
わからない	20.0	15.4	24.3	22.4	30.0	25.5	20.2	15.0	0.0
手助けを求めたくない	0.0	12.3	3.8	7.2	5.3	7.2	7.1	7.9	0.0
手助けを求められない	10.0	10.8	11.7	9.9	6.5	3.8	5.0	4.3	50.0
無回答	0.0	0.0	1.0	0.6	0.6	2.6	5.9	10.7	50.0
回答人数 (人)	10	65	103	152	170	235	238	140	2



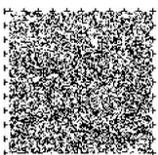
過去5年間に地域活動*に参加したことがありますか。(〇は1つ) 【一般】

地域活動への参加状況は、「参加したことがある」59.3%と前回の調査より、8.3ポイント増加しています。

年代別にみると、20歳代が15.4%と最も低く、70歳代が71.0%と最も高くなっています。50歳代以上は、6割以上が「参加したことがある」と回答しています。



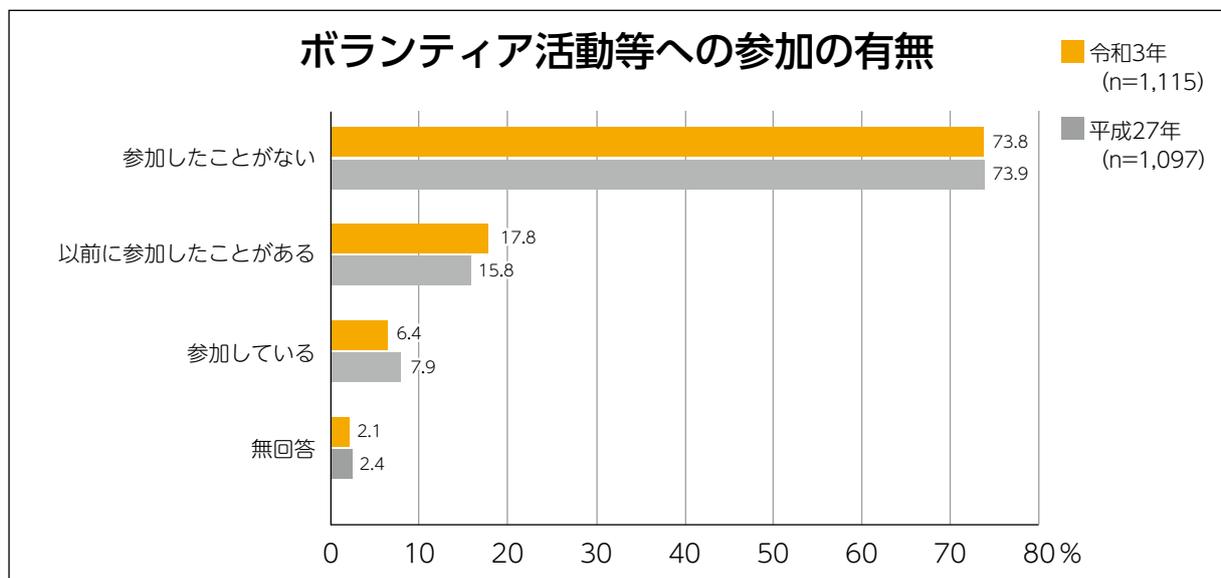
	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	その他
参加したことがある (参加している)	50.0	15.4	41.7	53.3	65.3	65.1	71.0	63.6	0.0
参加したことがない (参加していない)	50.0	83.1	58.3	46.7	34.1	32.8	27.7	33.6	50.0
無回答	0.0	1.5	0.0	0.0	0.6	2.1	1.3	2.8	50.0
回答人数 (人)	10	65	103	152	170	235	238	140	2



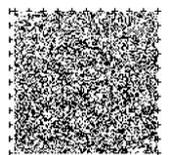
ボランティアやNPO（営利を目的としないで社会貢献活動や慈善行動を行う市民活動）の活動に参加したことがありますか。（○は1つ）【一般】

ボランティアやNPOの活動への参加状況では、「参加したことがない」73.8%が最も多い回答となっています。次いで「以前に参加したことがある」17.8%、「参加している」6.4%となっています。

「以前に参加したことがある」、「参加している」と回答した人は、合計で24.2%で、前回の調査より、0.5ポイント増加しています。年代別にみると、割合が高い順に10歳代が50.0%、20歳代が29.2%、70歳代が27.3%、30歳代が27.2%となっています。

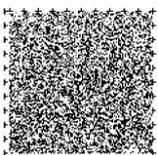
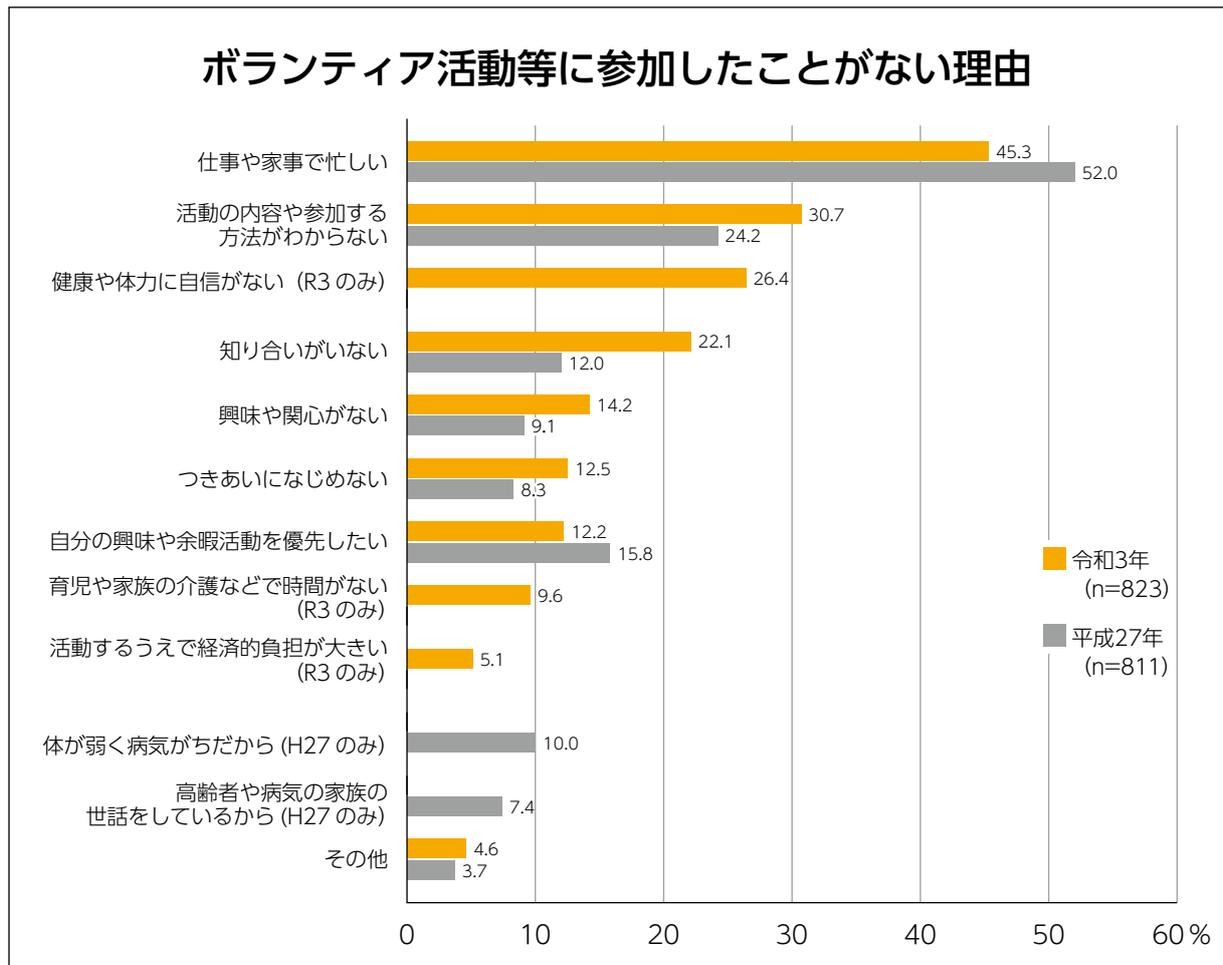


	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	その他
参加したことがない	50.0	70.8	72.8	77.6	79.4	75.7	70.6	69.3	50.0
以前に参加したことがある	40.0	24.6	25.3	16.4	15.9	17.0	14.3	19.3	0.0
参加している	10.0	4.6	1.9	5.3	4.1	6.4	13.0	2.8	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.7	0.6	0.9	2.5	8.6	50.0
回答人数(人)	10	65	103	152	170	235	238	140	2



ボランティア活動等に参加したことがない理由は何ですか。
 (あてはまるものすべてに○) 【一般】

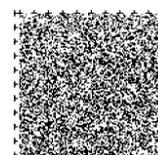
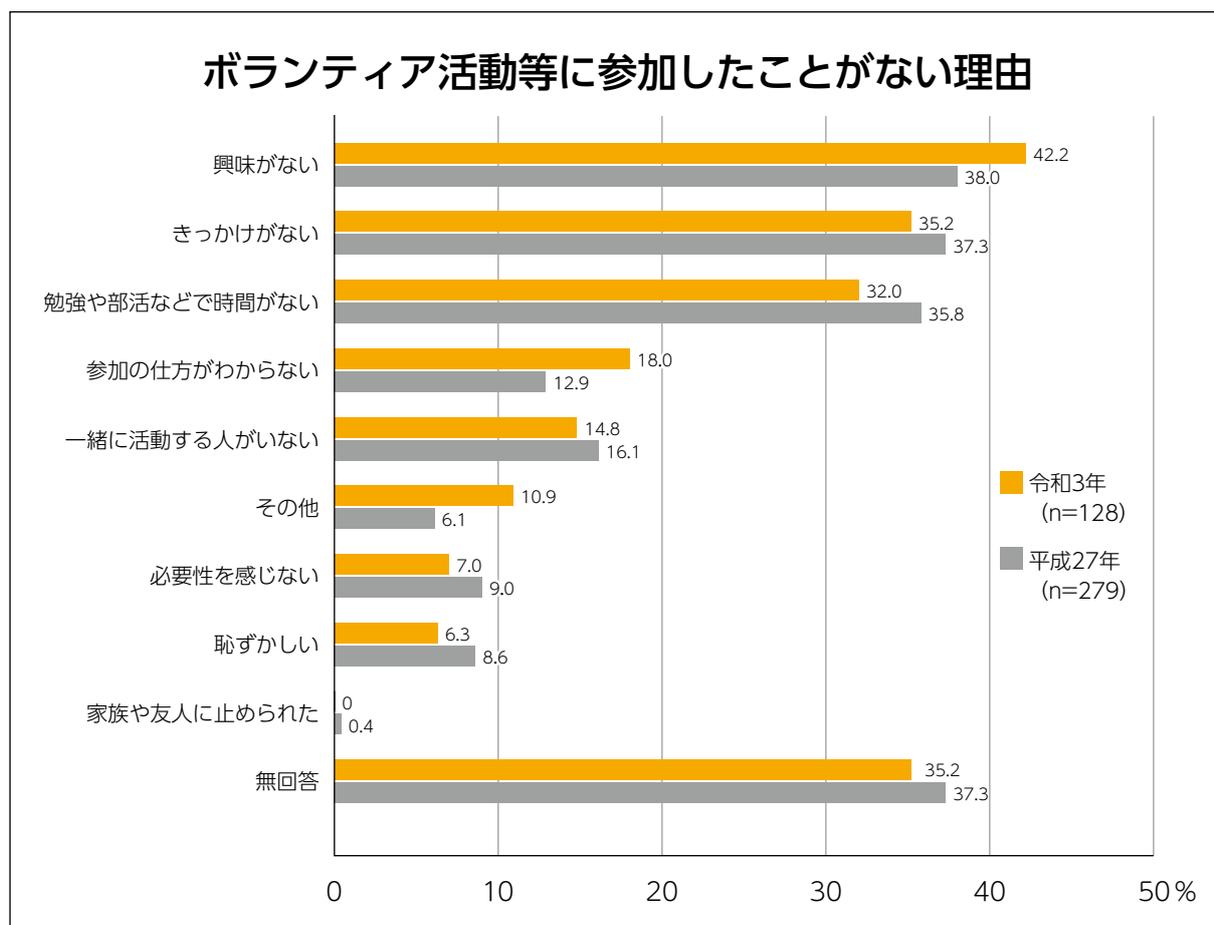
ボランティア活動等に参加したことがない理由は、「仕事や家事で忙しい」45.3%が最も多い回答となっています。次いで「活動の内容や参加する方法がわからない」30.7%、「健康や体力に自信がない」26.4%、「知り合いがいない」22.1%となっています。



ボランティア活動等に参加したことがない理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○) 【高校生】

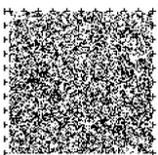
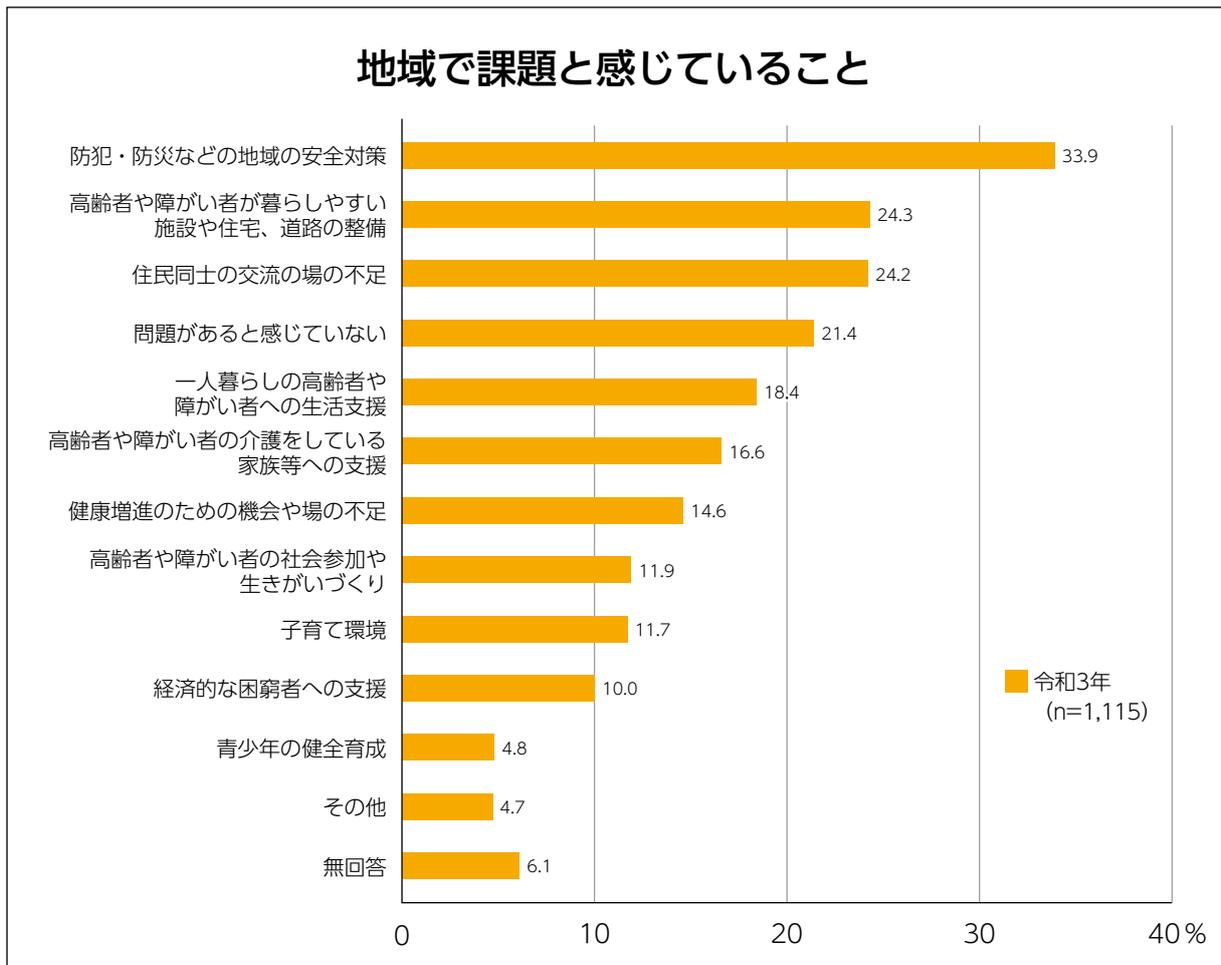
ボランティア活動等に参加したことがない理由は、「興味がない」42.2%が最も多い回答となっています。次いで、「きっかけがない」35.2%、「勉強や部活などで時間がない」32.0%、「参加の仕方がわからない」18.0%、「一緒に活動する人がいない」14.8%となっています。

前回の調査でも、「興味がない」、「きっかけがない」、「勉強や部活などで時間がない」と回答した人の割合が高くなっています。



お住いの地域で課題と感じていることはありますか。
(あてはまるものすべてに○) 【一般】

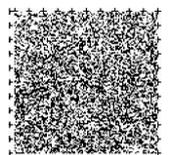
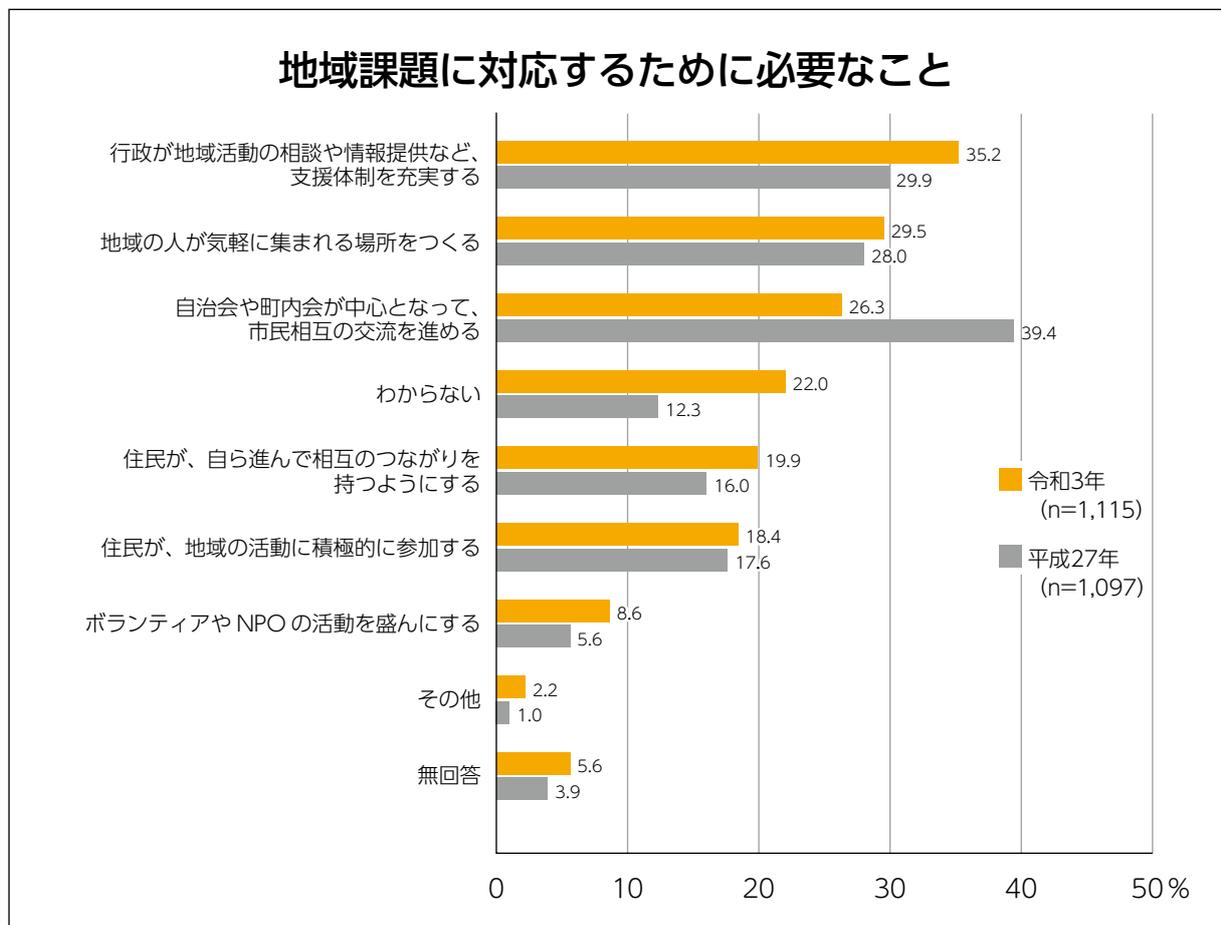
地域で課題と感じていることでは、「防犯・防災などの地域の安全対策」
33.9%が最も多い回答となっています。次いで「高齢者や障がい者が暮らしやすい施設や住宅、道路の整備」24.3%、「住民同士の交流の場の不足」
24.2%、「問題があると感じていない」21.4%、「一人暮らしの高齢者や障がい者への生活支援」18.4%、「高齢者や障がい者の介護をしている家族等への支援」16.6%、「健康増進のための機会や場の不足」14.6%、「高齢者や障がい者の社会参加や生きがいのづくり」11.9%、「子育て環境」11.7%、「経済的な困窮者への支援」10.0%、「青少年の健全育成」4.8%、「その他」4.7%、「無回答」6.1%となっています。



お住いの地域で課題だと感じていることに対し、住民が相互に協力するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）【一般】

地域課題に対応するために必要なことでは、「行政が地域活動の相談や情報提供など、支援体制を充実する」35.2%が最も多い回答となっています。次いで「地域の人が気軽に集まれる場所をつくる」29.5%、「自治会や町内会が中心となって、市民相互の交流を進める」26.3%となっています。

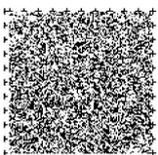
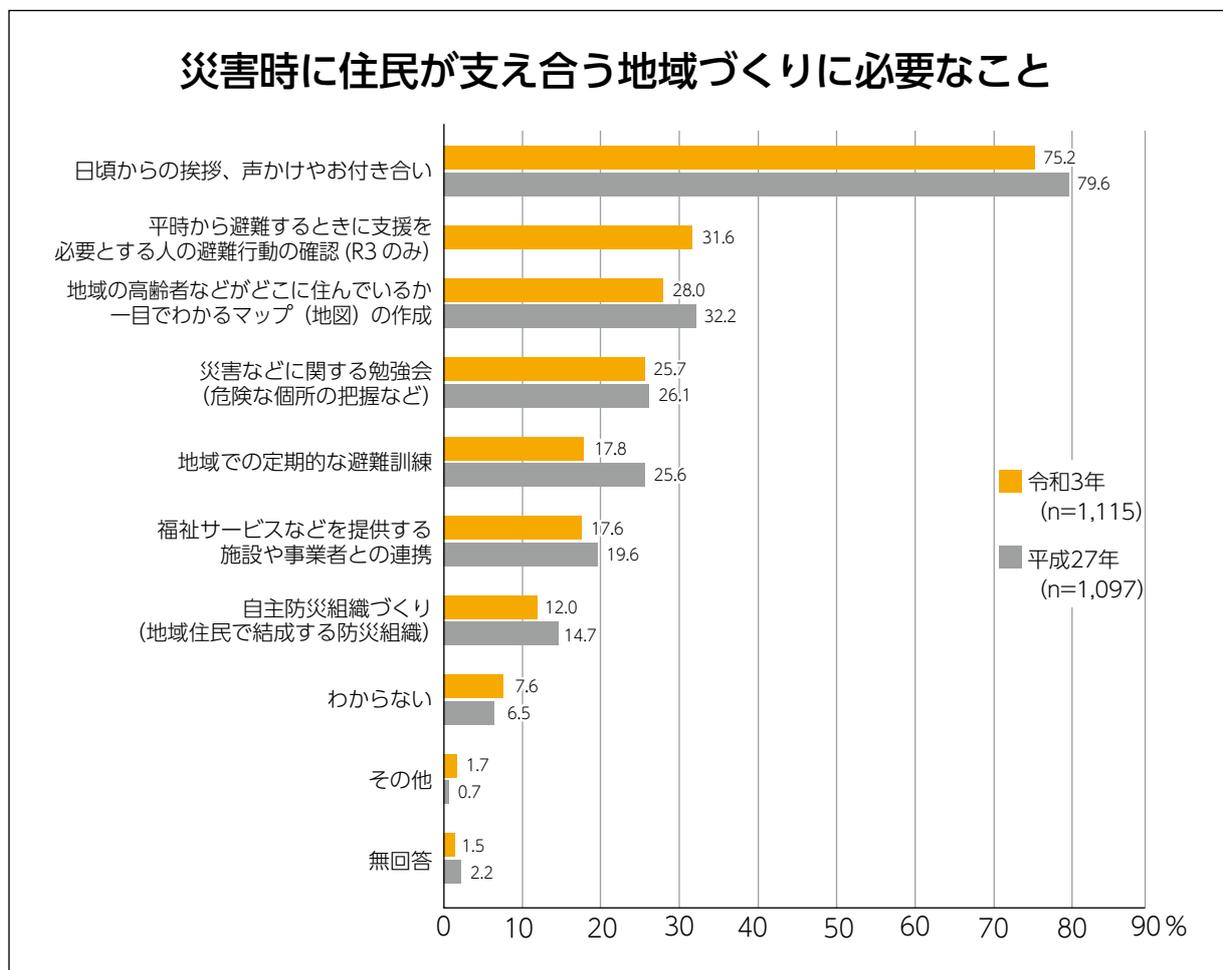
前回の調査でも、「行政が地域活動の相談や情報提供など、支援体制を充実する」、「地域の人が気軽に集まれる場所をつくる」、「自治会や町内会が中心となって、市民相互の交流を進める」と回答した人の割合が高くなっています。



災害時に住民が支え合う地域づくりには、何が必要だと思いますか。
 (〇は3つまで) 【一般】

災害時に住民が支え合う地域づくりに必要なことでは、「日頃からの挨拶、声かけやお付き合い」75.2%が最も多い回答となっています。次いで「平時から避難するときに支援を必要とする人の避難行動の確認」31.6%、「地域の高齢者などがどこに住んでいるか一目でわかるマップ（地図）の作成」28.0%となっています。

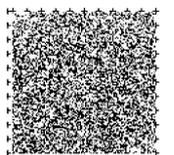
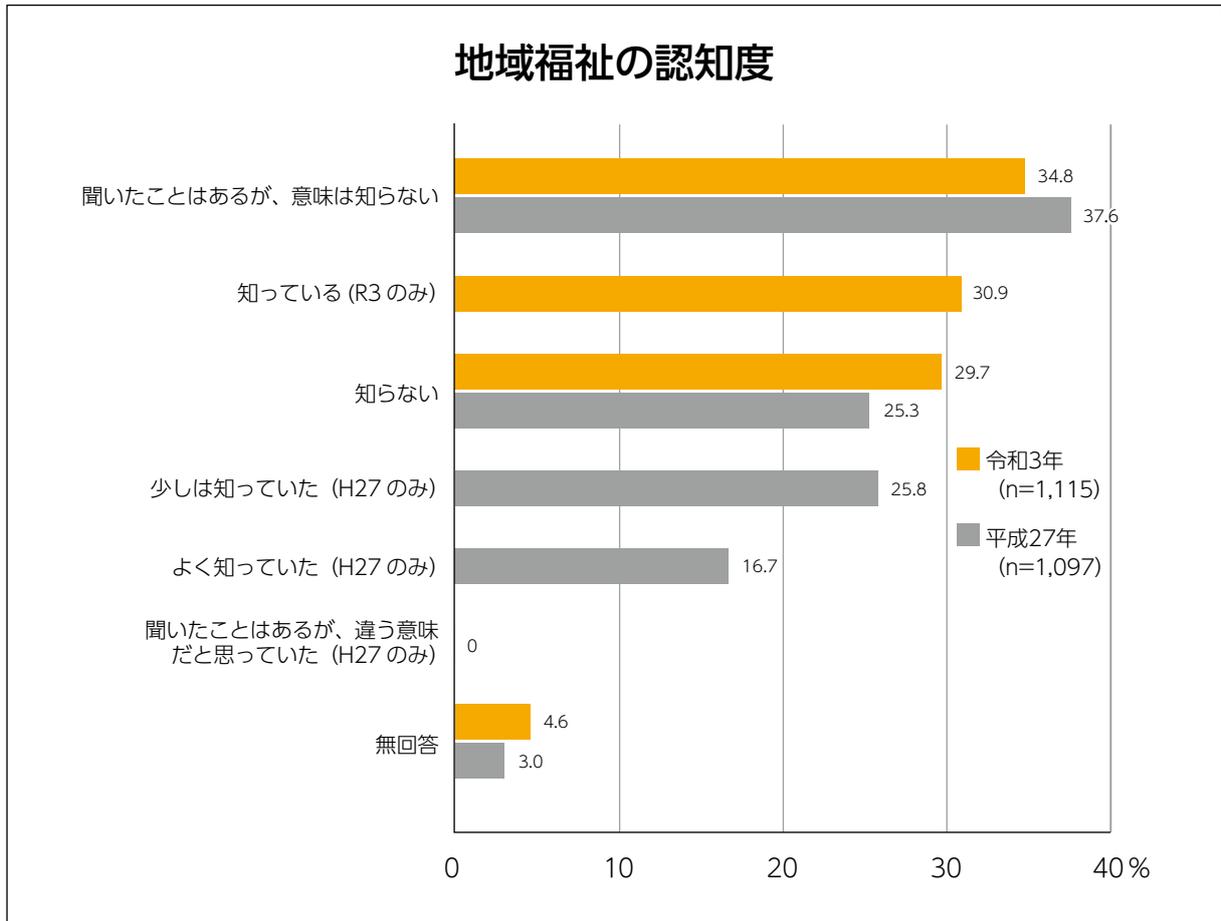
前回の調査でも、「日頃からの挨拶、声かけやお付き合い」、「地域の高齢者などがどこに住んでいるか一目でわかるマップ（地図）の作成」と回答した人の割合が高くなっています。



「地域福祉」という言葉や意味を知っていますか。（〇は1つ）【一般】

地域福祉の認知度は、「聞いたことはあるが、意味は知らない」34.8%が最も多い回答となっています。次いで「知っている」30.9%、「知らない」29.7%となっています。

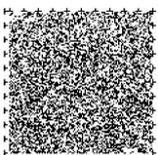
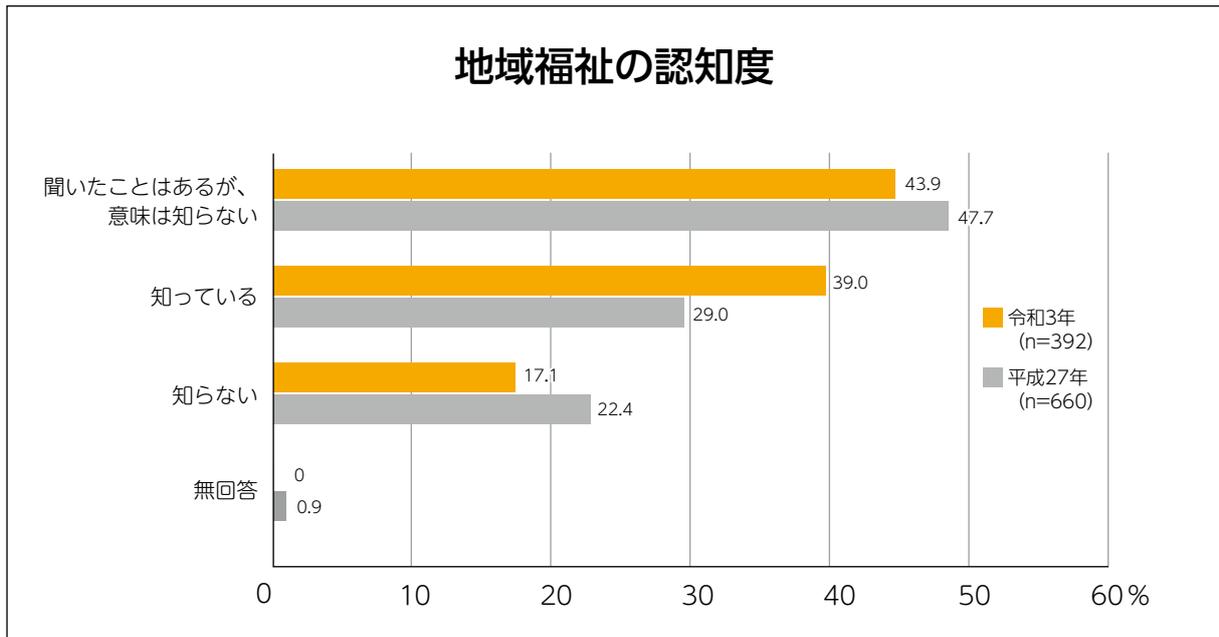
「知らない」と回答した人は、前回の調査より、4.4ポイント増加しています。



「地域福祉」という言葉や意味を知っていますか。 (〇は1つ)
【高校生】

「地域福祉」の言葉の認知度は、「聞いたことはあるが、意味は知らない」43.9%が最も多い回答となっています。次いで「知っている」39.0%、「知らない」17.1%となっています。

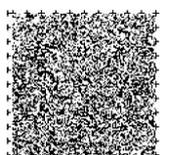
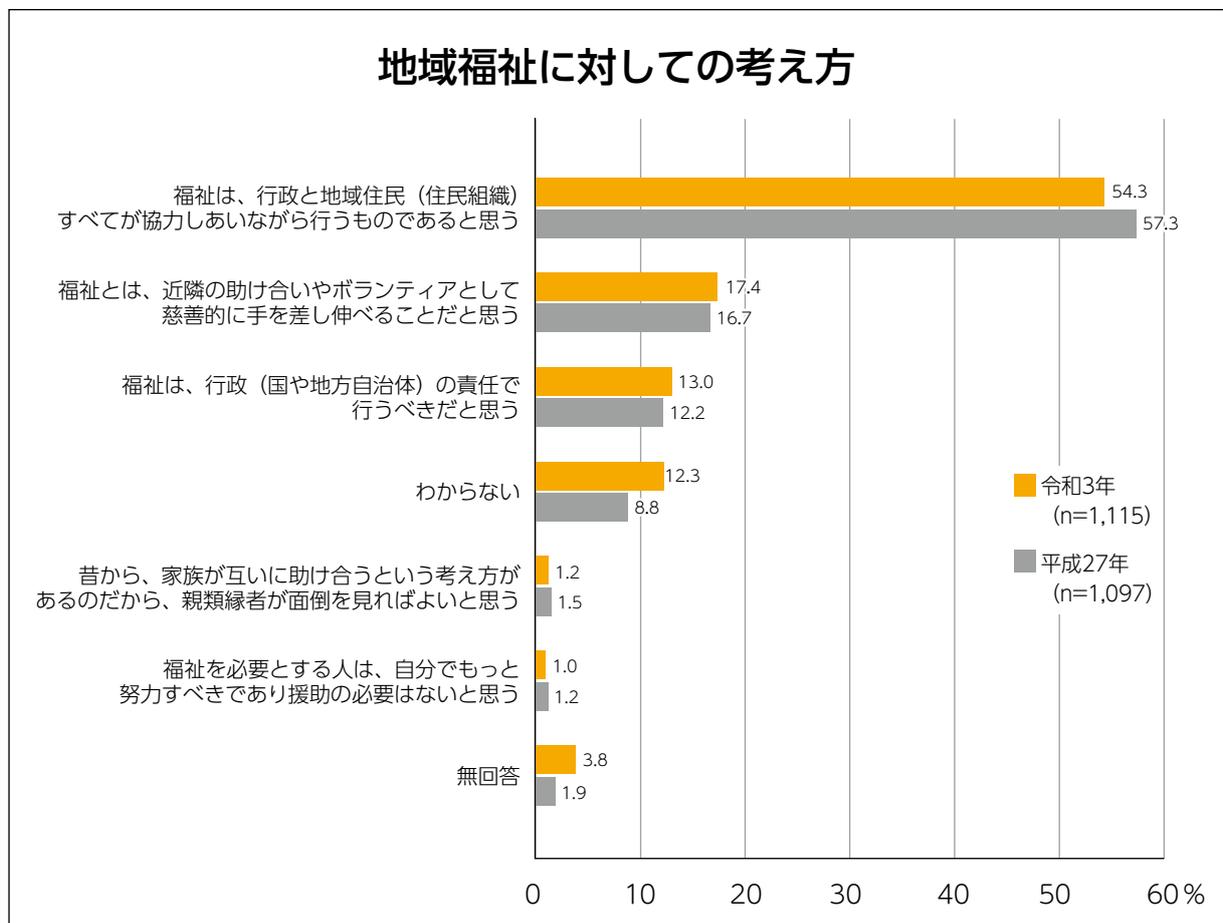
前回の調査よりも、「聞いたことはあるが意味は知らない」、「知らない」と回答した人は、減っています。



地域福祉に対する考え方は、次のどれに近いですか。（〇は1つ）【一般】

地域福祉に対する考え方は、「福祉は、行政と地域住民（住民組織）すべてが協力しあいながら行うものであると思う」54.3%が最も多い回答となっています。次いで「福祉とは、近隣の助け合いやボランティアとして慈善的に手を差し伸べることだと思う」17.4%、「福祉は、行政（国や地方自治体）の責任で行うべきだと思う」13.0%となっています。

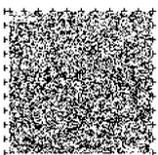
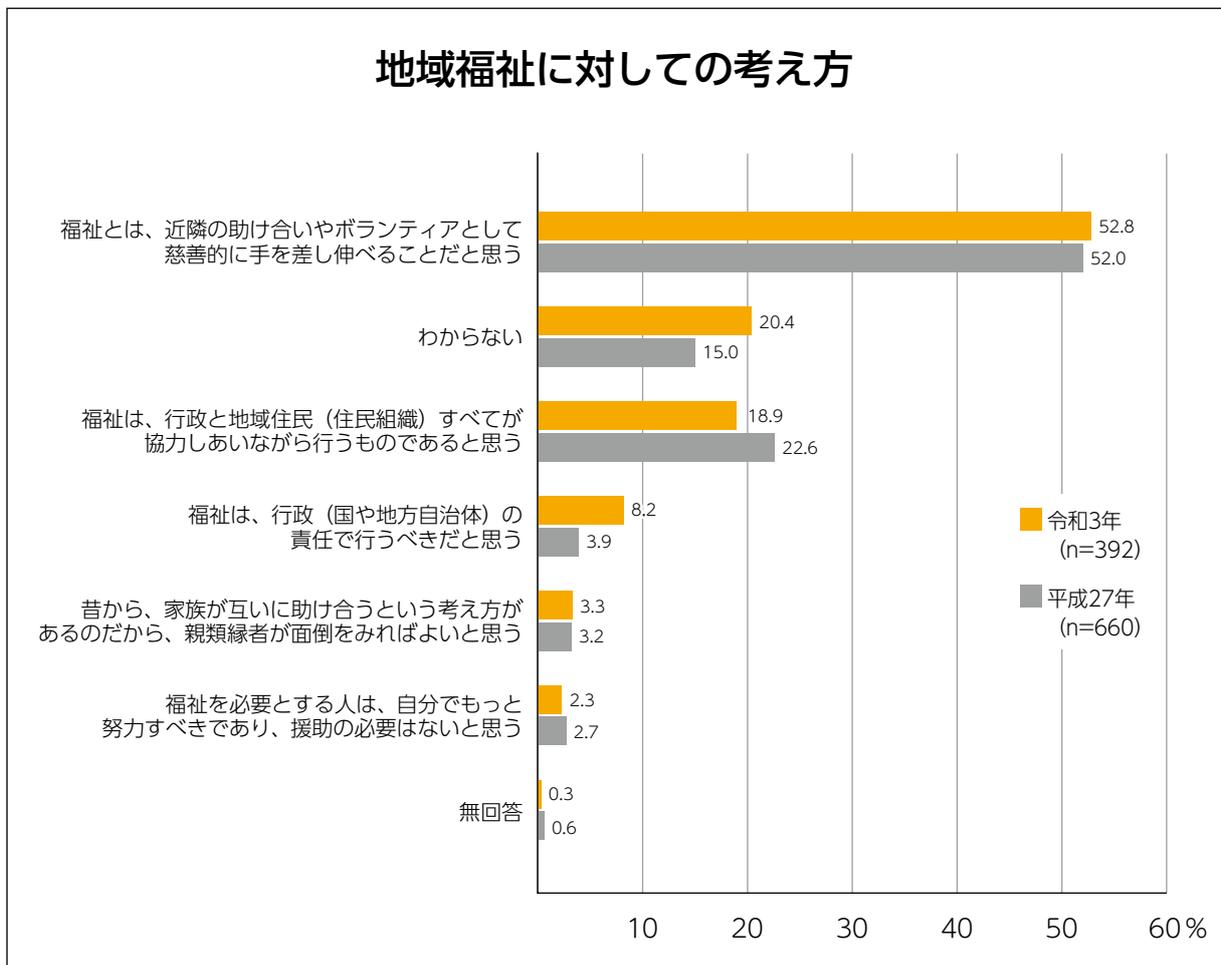
前回の調査でも、「福祉は、行政と地域住民（住民組織）すべてが協力しあいながら行うものであると思う」、「福祉とは、近隣の助け合いやボランティアとして慈善的に手を差し伸べることだと思う」、「福祉は、行政（国や地方自治体）の責任で行うべきだと思う」と回答した人の割合が高くなっています。



地域福祉に対する考え方は、次のどれに近いですか。（〇は1つ）
【高校生】

地域福祉に対する考え方は、「福祉とは、近隣の助け合いやボランティアとして慈善的に手を差し伸べることだと思う」52.8%が最も多い回答となっています。次いで、「わからない」20.4%、「福祉は、行政と地域住民（住民組織）すべてが協力しあいながら行うものであると思う」18.9%でした。

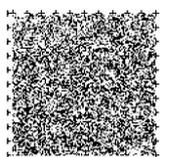
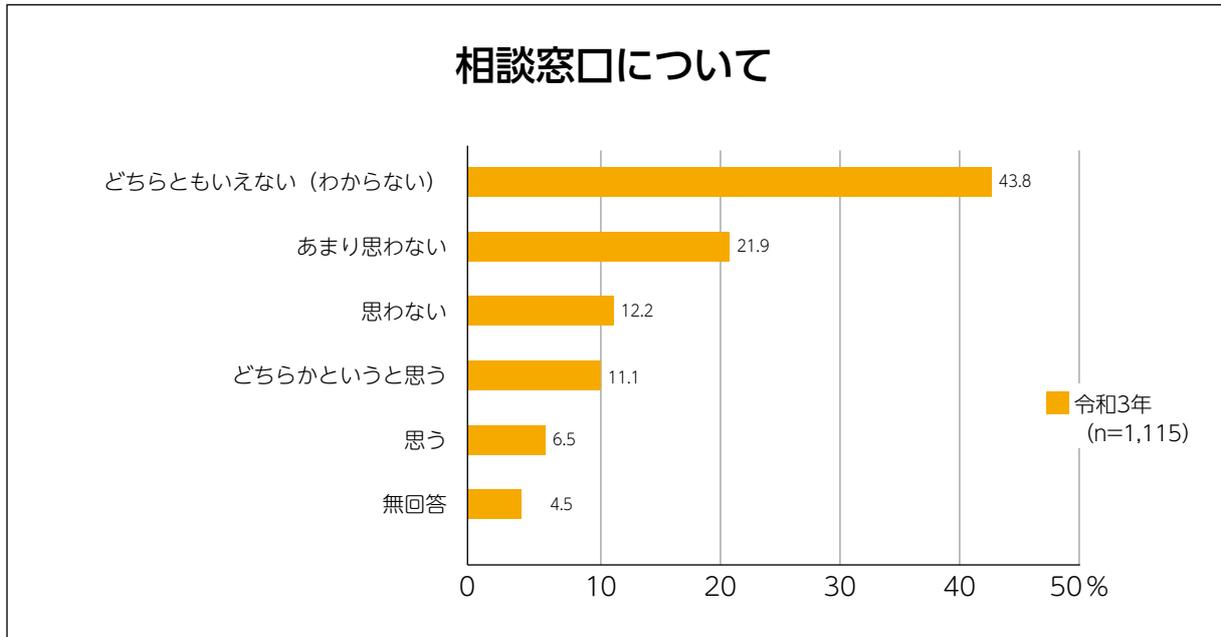
前回の調査でも、「福祉とは、近隣の助け合いやボランティアとして慈善的に手を差し伸べることだと思う」、「福祉は、行政と地域住民（住民組織）すべてが協力しあいながら行うものであると思う」と回答した人の割合が高くなっています。



困りごとがあったときに、相談できる場、支援を受けることができる環境等が整備されていると思いますか。（○は1つ）【一般】

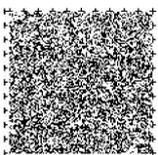
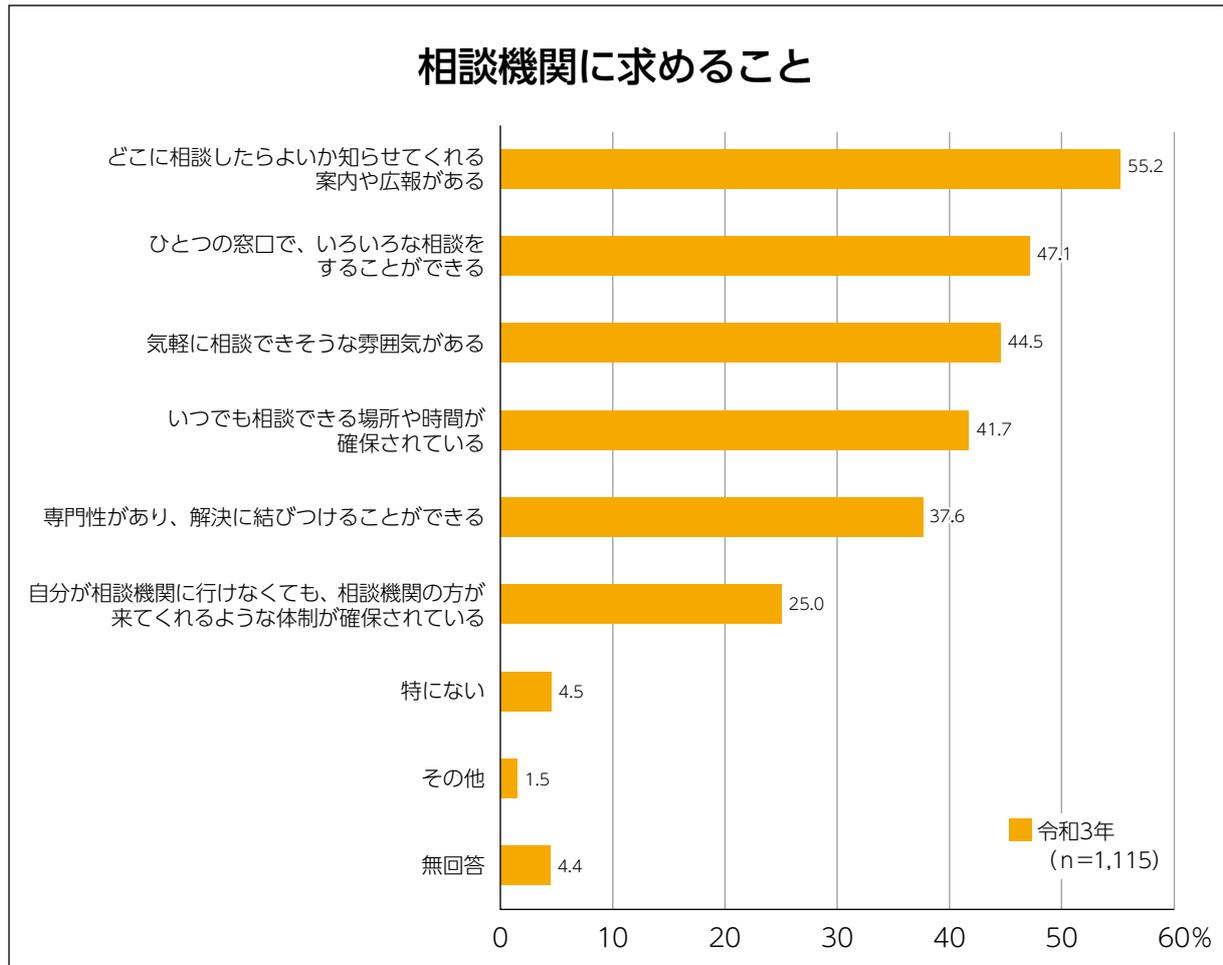
相談できる場や支援を受けることができる環境が整備されているかでは、「どちらともいえない（わからない）」43.8%が最も多い回答となっています。次いで「あまり思わない」21.9%、「思わない」12.2%となっています。

「どちらともいえない（わからない）」、「あまり思わない」、「思わない」と回答した人の合計は、77.9%となっています。



今後、様々な福祉の相談をすることになった時、相談機関にはどんなことを求めますか。（あてはまるものすべてに○）【一般】

相談機関に求めることは、「どこに相談したらよいか知らせてくれる案内や広報がある」55.2%が最も多い回答となっています。次いで「ひとつの窓口で、いろいろな相談をすることができる」47.1%、「気軽に相談できそうな雰囲気がある」44.5%となっています。



3

地域活動実践者等へのアンケート調査結果 (久喜市社会福祉協議会実施)

(1) 調査概要

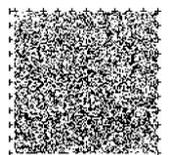
① アンケート調査

「第3次久喜市地域福祉計画・地域福祉活動計画」を策定するにあたり、地域活動実践者等に対して、地域福祉に関する意向や変化、今後の展望に対する意見を伺い、基礎資料とするため、久喜市社会福祉協議会がアンケート調査を実施しました。

	I 地域活動実践者	II 専門職
調査対象者	① 民生委員・児童委員 ② 福祉委員 ③ くき元気サービス協力会員 ④ 登録ボランティアグループ ⑤ 登録個人ボランティア ⑥ ふれあい・いきいきサロン ⑦ 地区コミュニティ協議会	市内福祉サービス事業所等の福祉に関わる専門職 (居宅介護支援事業所、介護保険サービス事業所・施設、障がい児者福祉サービス事業所・施設、子育て支援機関・施設、病院、薬局等)
調査方法	郵送による配布・回収 ③④は会議・研修の機会にグループワークを実施	郵送による配布・回収
配布数	1, 203件	176事業所
回収数	687件	89事業所
回収率	57.1%	50.6%
調査時期	令和3年7月9日～ 令和3年9月17日	令和3年8月23日～ 令和3年9月15日

- ・グラフの「n=〇〇」という表記は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人数）を表しています。
- ・比率は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率が0.05未満の場合には0.0と表記しています。
- ・選択肢に対しての回答者の数を基数とし、比率算出を行っています。このため、比率計が100%を超えることがあります。
- ・報告書中の文章やグラフにおいて、設問や選択肢の一部を省略して記載している場合があります。

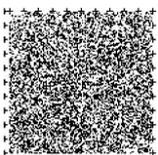
※アンケート調査結果の詳細については、久喜市社協ホームページに掲載しています。



②グループワーク

「久喜市全体で、ボランティア活動を活発にするためには誰が何をしていくことが望ましいか」について検討し、情報発信の重要性や情報発信の方法について工夫が必要との意見が出されました。

対 象	参加者数	実施日・会場
くき元気サービス 協力会員研修会	14人	令和3年7月19日(月) ふれあいセンター久喜
登録ボランティアグループ 代表者会議	11団体 12人	令和3年7月13日(火) 菖蒲文化会館
	22団体 21人	令和3年7月15日(木) ふれあいセンター久喜
合 計	47人	

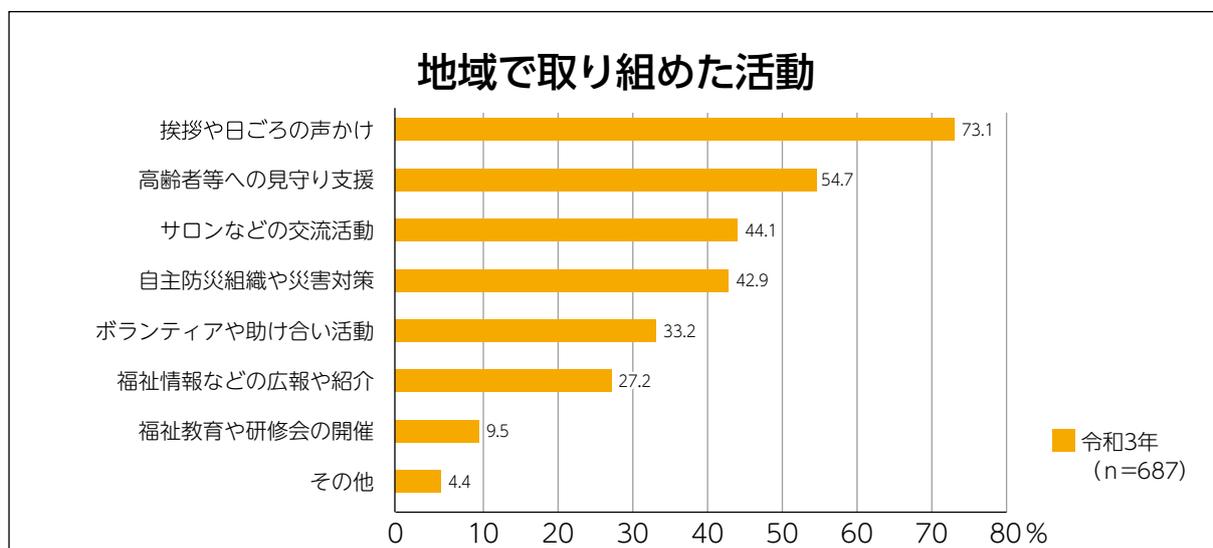


(2) 主な回答結果

お住まいの地区で、取り組めた活動について教えてください。
(あてはまるものすべてに○) 【地域活動実践者】

取り組めた活動は、「挨拶や日ごろの声かけ」73.1%が最も多い回答となっており、次に「高齢者等への見守り支援」54.7%となっています。

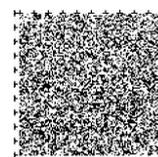
特に、民生委員・児童委員は、「挨拶や日ごろの声かけ」が78.9%、「高齢者等への見守り支援」が73.3%、福祉委員も「挨拶や日ごろの声かけ」が82.1%と非常に高く、コロナ禍においても様々な工夫をしながら、住民と顔の見える関係づくりと地域情報の把握に努められた様子がわかります。



■地域活動実践者別の回答

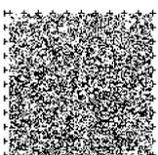
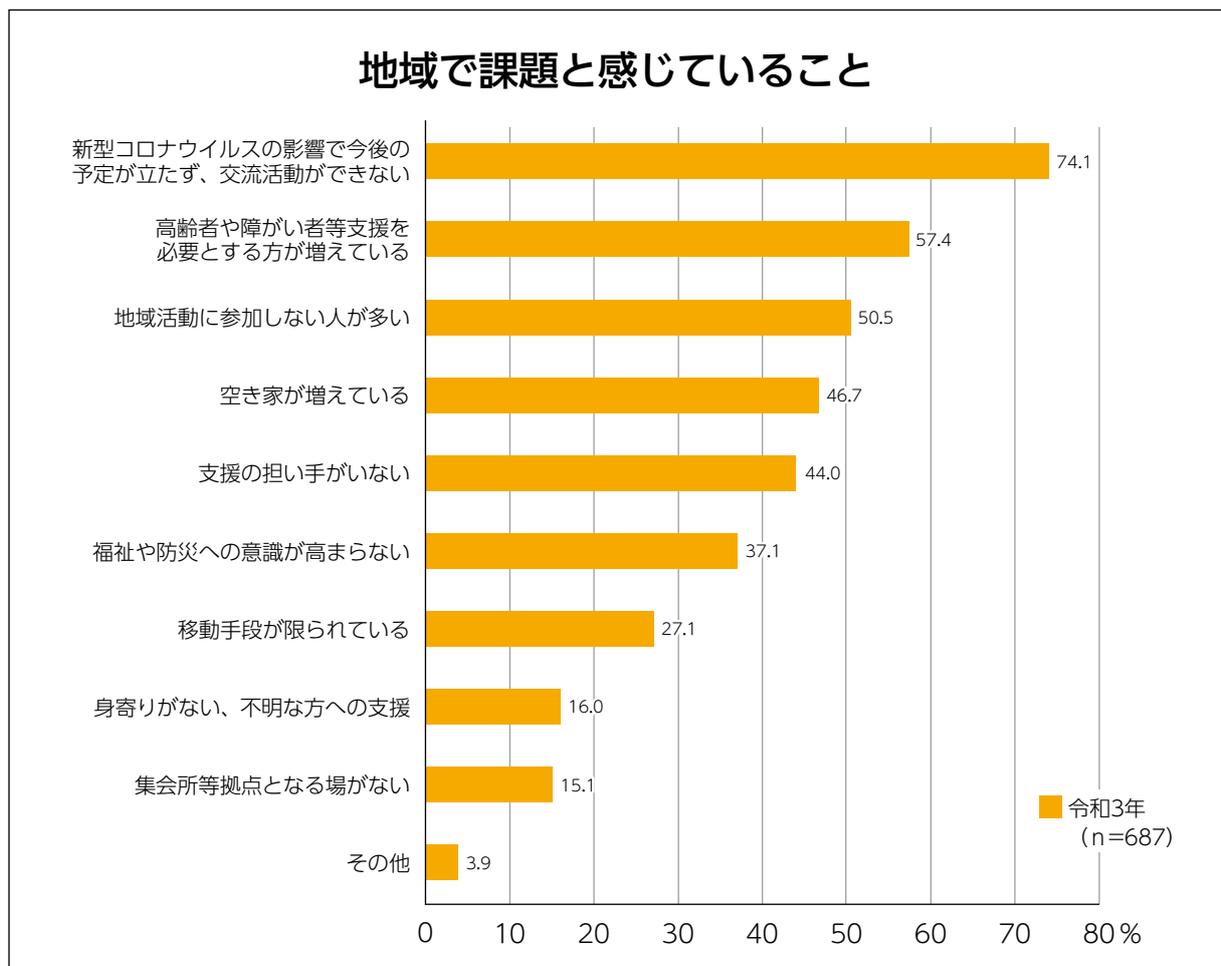
(単位：%)

	合計 (人)	比率 (%)	民生 委員	福祉 委員	協力 会員	登録 団体	登録 個人	サロン	コミ協
挨拶・声かけ	502	73.1	78.9	82.1	60.8	46.9	66.7	74.5	67.6
見守り支援	376	54.7	73.3	52.7	39.2	34.7	22.2	53.9	42.6
サロン	303	44.1	27.9	49.1	41.2	55.1	31.5	87.3	35.3
災害対策	295	42.9	39.4	54.5	33.3	36.7	16.7	50.0	58.8
ボランティア	228	33.2	26.3	25.9	41.2	42.9	53.7	37.3	35.3
広報・紹介	187	27.2	27.5	28.6	17.6	32.7	20.4	34.3	22.1
研修会開催	65	9.5	4.8	5.4	11.8	24.5	22.2	10.8	8.8
その他	30	4.4	4.4	3.6	2.0	6.1	3.7	2.9	8.8



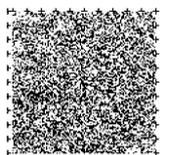
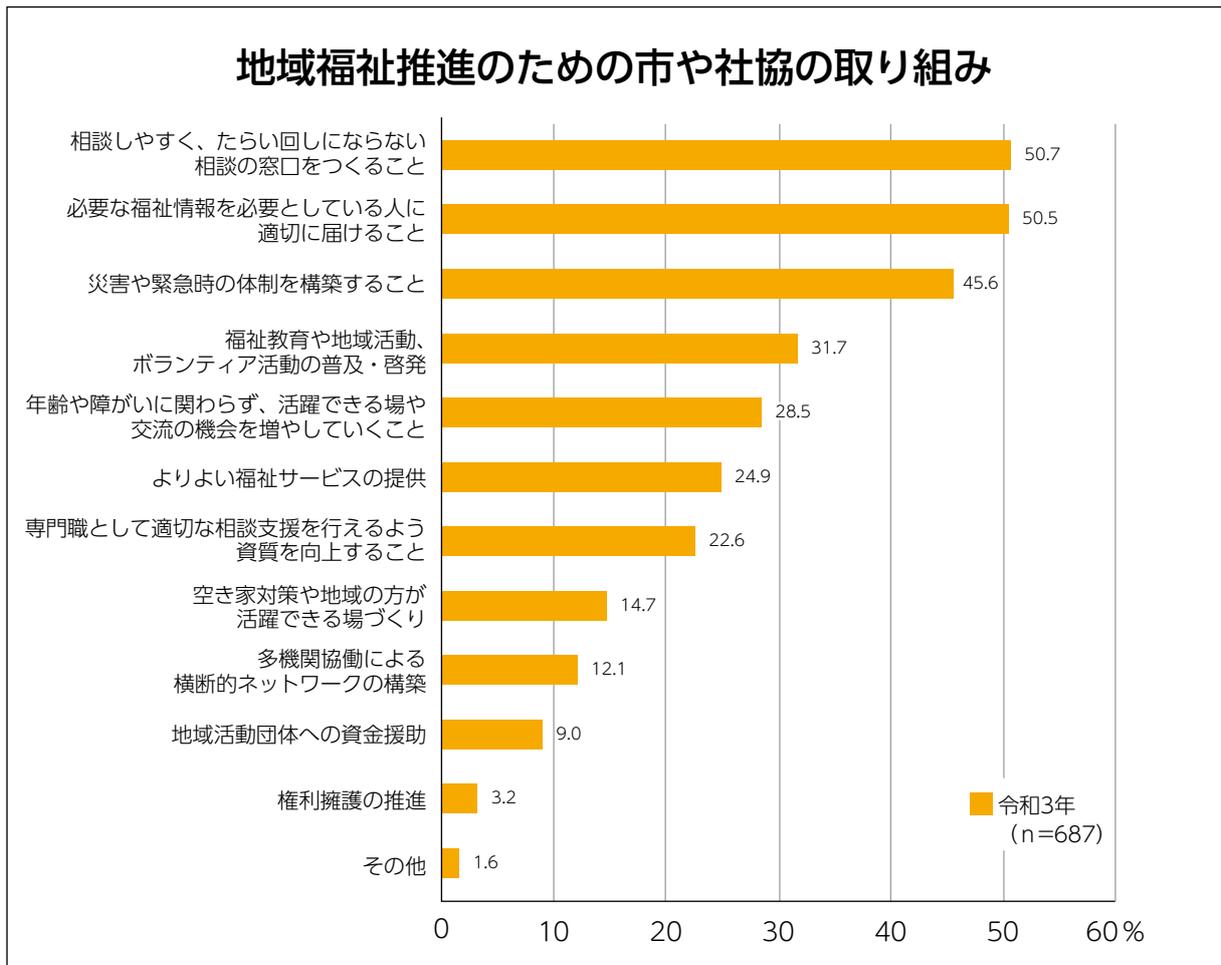
今後、お住まいの地区では、どのようなことが心配だと感じていますか。
(あてはまるものすべてに○) 【地域活動実践者】

地域で課題と感じていることでは、「新型コロナウイルスの影響で今後の予定が立たず、交流活動ができない」74.1%、「高齢者や障がい者等支援を必要とする方が増えている」57.4%、「地域活動に参加しない人が多い」50.5%が上位にあげられています。



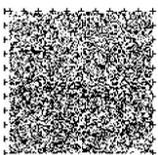
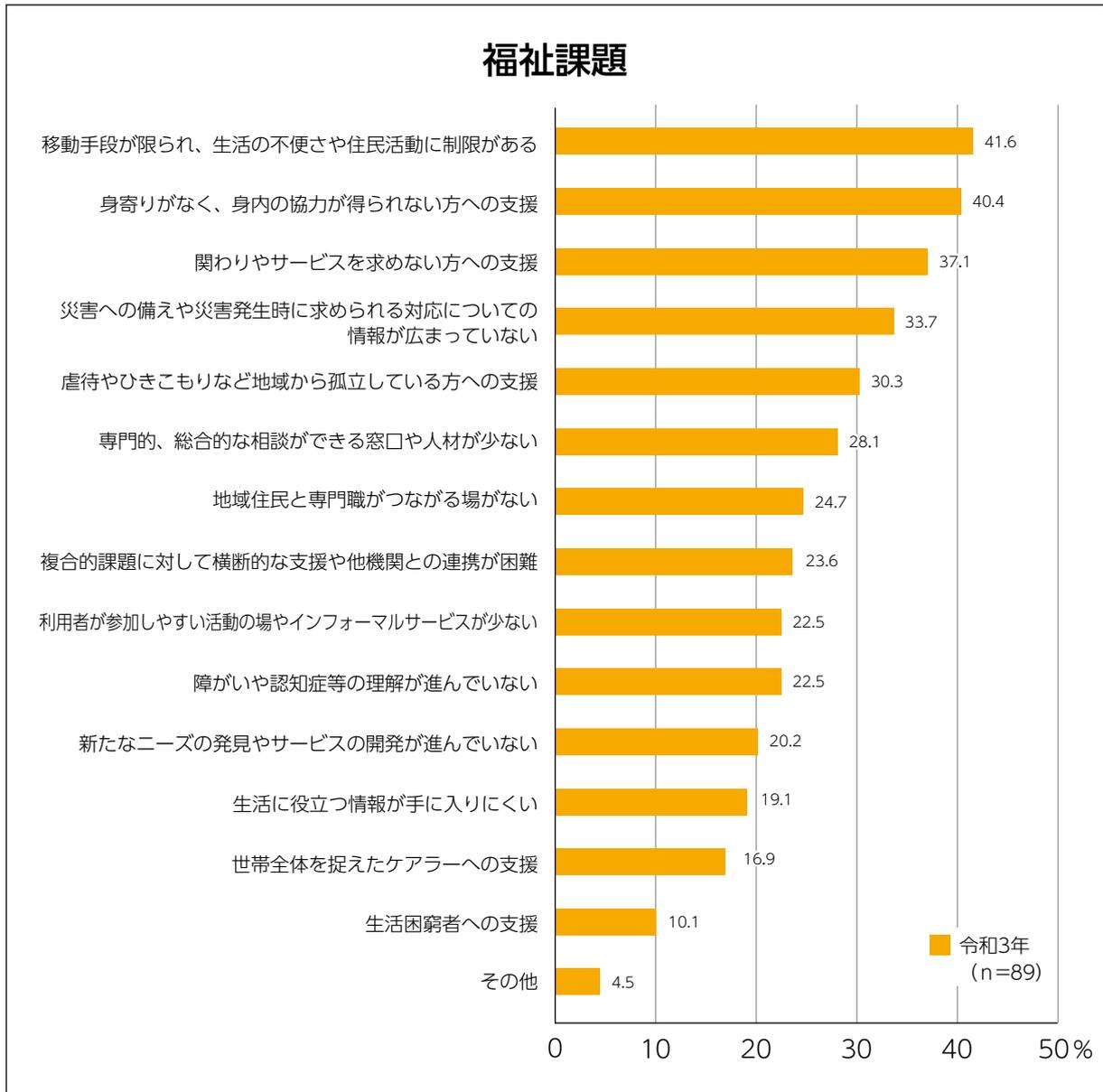
これからの計画の中で、市や社会福祉協議会が取り組んでいくこととして、望ましいと思う内容は何か。（〇は3つまで） 【地域活動実践者】

市や社会福祉協議会が取り組んでいくこととして、「相談しやすく、たらい回しにならない相談の窓口をつくること」50.7%、「必要な福祉情報を必要としている人に適切に届けること」50.5%、「災害や緊急時の体制を構築すること」45.6%が上位にあげられています。



日頃の業務の中で、久喜市の福祉課題として強く感じていることは何ですか。
 (〇は5つまで) 【専門職】

課題と感じていることでは、「移動手段が限られ、生活の不便さや住民活動に制限がある」41.6%、「身寄りがなく、身内の協力が得られない方への支援」40.4%、「関わりやサービスを求めない方への支援」37.1%が上位にあげられています。



4

調査結果から見える現状と課題

(1) 市民アンケート調査の結果から見える現状と課題

① 近所付き合いの希薄化・意識変化

約8割の人が、ご近所とは、挨拶や世間話などの付き合いがありますが、困ったときに手助けを求められるかとの質問では、25.9%の人が「手助けを求めたいが遠慮してしまう」、6.6%の人が「手助けを求められない」、22.5%の人が「わからない」と回答しています。

平時や災害時に住民同士が支え合い、助け合いができるよう、地域性や時代にあった関係を構築していくことや住民一人ひとりが地域との関わり合いを深めていく必要があります。

また、災害対策への関心は高く、災害時に住民同士が支援し合う必要性を多くの市民が認識しています。災害時に住民が支え合うことができる地域づくりを進めるために、引き続き要援護者見守り支援事業*の周知や自主防災組織等の支援をしていく必要があります。

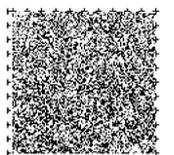
② 地域福祉活動への参加者の伸び悩み

ボランティア活動等に「参加している」、「参加したことがある」と回答した人は、合計で24.2%となっています。前回の調査より0.5ポイント増加しています。

ボランティア活動等へ参加したことがない理由として、「参加する時間がない」、「参加方法がわからない」と回答した人の割合が高くなっています。

ボランティア活動等を活発にするために「積極的な情報提供」や「活動時間の短縮など参加しやすい工夫」、「体験活動など、初めての人も参加しやすいようなきっかけづくりを行う」ことが求められています。

また、リーダーとなる人の育成やボランティアセンター*の機能を強化する必要があります。



③ 包括的な相談支援体制*の充実

相談や支援を受けることができる環境について、「整備されていると思う」、「どちらかというと整備されていると思う」と回答した人は、約2割でした。約5割の人が「相談機関の情報提供」や「包括的な相談窓口」を求めています。

必要な人が必要な時に支援を受けられるよう、様々な媒体を使い、きめ細かな情報を提供していく必要があります。

また、複雑化・複合化した課題を解決するため、ワンストップ型の包括的な相談窓口及び支援体制を構築する必要があります。

(2) 地域活動実践者アンケート調査の結果から見える現状と課題

① 地域活動の担い手不足

地域活動実践者がそれぞれの状況に応じて、日頃の生活の中で「挨拶や声かけ」、「ふれあい・交流を深める付き合いや場づくり」を実践し、問題の早期発見を可能とする環境は形成されていますが、活動の主体は70歳代を中心としたシニア世代となっています。

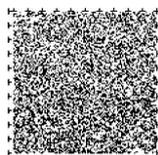
一方で、一人暮らしの高齢者など支援を必要とする人が増加しており、現在のシステムを維持していくためには担い手不足が課題となっています。

課題解決のためには、若い世代等、多様な担い手の参加協力が必要です。

② 交流活動の機会や場の減少

新型コロナウイルス感染症の影響により、人との関わりが制限される中で、交流活動の減少を危惧する意見が多くありました。また、集まれる場所が少ない、利用しにくい、地域活動に参加しない人が増えているとの意見もありました。

地域活動の核となり、誰でも交流できる場や機会を増やしていくことは、日頃からの関係構築とともに、課題の早期発見につながります。



③ 相談先のわかりにくさや情報不足

一つの世帯に複数の課題が存在していて、どこに相談したらよいか分からない案件が増えているとの意見があり、包括的に対応できる支援体制を構築する必要があります。

また、専門職や関係機関の機能がわかりにくいため、どこに相談したらよいか分からないという意見もあり、さらなる相談窓口の周知や地域住民と専門職をつなぐ人材が必要です。

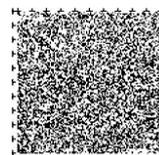
(3) 専門職アンケート調査の結果から見える現状と課題

① 生活支援や制度の狭間の困りごとの増加

生活支援や制度の狭間の困りごとが増加しており、隙間を埋めるようなサービスが期待されています。また、地域性にあったサービスや支え合いの検討と体制づくりが必要です。

② 孤立化している世帯への対応が困難

専門職からは、一人暮らしの高齢者が増加しており、身寄りのない人や身内の協力を得られない人、関わりやサービスを求めない人への支援が困難との意見が多くありました。また、身近に相談できる人や場が必要との意見がありました。身近に相談できる体制づくりが必要です。



③ 複合的な課題のある世帯への対応が困難

専門職からは、複合的な課題のある世帯への対応が困難との意見がありました。一つの窓口で相談できる相談体制や、困難なケースへの対応には、関係機関同士の連携体制を構築する必要があります。

④ 連携の不足

サービス利用者等にとっての居場所づくりや交流の機会が増えたことは実感されていますが、さまざま課題が累積する中では、専門職同士や、専門職と地域の関係者等とが連携し、意見交換を図りながら対応していくことが解決の糸口となると考えられます。専門職同士や専門職と地域活動実践者が相互理解を図り連携を深める場づくりが必要です。

